

# 富山市 自主防災だより

発行

富山市 防災危機管理部 防災危機管理課

T E L 076-443-2181 F A X 076-443-2039

「富山市自主防災だより」第 1 1 号発行にあたり

令和 4 年 6 月に石川県能登地方を震源とする地震に伴い、人的被害や住家が一部破損するなどの被害が発生しました。また、本市においても同年 8 月の大雨被害により、床上・床下浸水被害が発生しました。

これらの災害から被害を少しでも軽減するためには、地域防災力の向上が必要であり、自主防災組織の活動は災害に強いまちづくりへの第一歩となります。

富山市自主防災だよりが自主防災組織活動活性化の一助になれば幸いです。

## 避難所開設訓練を実施しました。

近年、全国各地で自然災害が頻発化・激甚化する中で、災害発生時に市民の安全確保と応急生活の拠点となる指定避難所を迅速かつ円滑に開設できるよう、「避難所開設訓練」を実施しました。

本訓練は避難所開設の役割を担う市職員や避難所施設管理者が平時から避難所開設手順や避難所開設資機材の保管場所や使用方法等の確認を行い、災害発生時には迅速・円滑に避難所が開設できるよう備えておくことを目的としております。



## 地域の防災リーダー研修会を開催しました

- 日時  
令和4年8月30日（火）  
18時30分～20時00分
- 場所  
婦中ふれあい館
- 研修内容  
講座：「マイタイムライン」で逃げ遅れゼロ  
（講師：富山県防災士会 永原氏）
- 参加人数  
参加者41名（講師役5名含む）

災害発生直後の防災リーダーの役割確認やスキルアップを目的に、地域の防災リーダー研修会を開催しました。防災講座を通し、マイ・タイムラインを訓練参加者が自ら作成したことで、防災への意識が高まり、防災リーダーとしての心構えを身に付けることが出来ました。



## 富山市自主防災組織組織率 令和5年2月末現在

富山地域	：375組織	組織率 73.2%
大沢野地域	：52組織	結成率 70.2%
大山地域	：12組織	結成率 65.4%
八尾地域	：35組織	結成率 58.7%
婦中地域	：92組織	結成率 100%
山田地域	：9組織	結成率 69.9%
細入地域	：10組織	結成率 100%
全体	：585組織	結成率 74.8%

## 富山市の防災情報ツイッター、防災フェイスブック、Yahoo!防災速報への登録をお願いします！

災害から逃れるためには、気象情報などをいち早く手に入れ、速やかに行動することが重要です！

富山市防災情報ツイッター

富山市防災フェイスブック

ヤフー防災速報



## 自主防災組織のみなさまへお願い

日頃から熱心に自主防災訓練を実施され、地域の防災力も高まっていることと思います。自主防災組織が実施する訓練に対し、富山市では上限10,000円の補助金を交付しています。

近年、補助金申請にあたって使用する様式が古かったり、記載内容に不備のあるものが見受けられます。

その中でも「防災訓練実施計画書（様式第7号）」は、訓練実施前にご提出していただくこととしておりますが、訓練実施後に訓練実績報告と併せて提出されることが多く見受けられます。「防災訓練実施計画書（様式第7号）」につきましては、必ず訓練実施前にご提出いただきますようお願いいたします。

また、申請にあたっては「自主防災組織活動事業補助金（訓練）申請の手順」や記入例をご確認の上、最新の書式を用いるようお願いいたします。

最新の様式は「富山市のホームページ」で閲覧・印刷できます。

ご不明な点は防災危機管理課にお問い合わせください。

TEL:076-443-2181



## 水害が発生しそうなときの避難行動について

NPO法人富山県防災士会 小林 格之

水害が発生しそうなときは地震と違い、実際に災害が起こるかわからないので、避難行動に移せないことがあります。

人間は「体験」のないことには、自分は大丈夫だと楽観的に考える特性があります。

これを「正常性バイアス」といいます。「正常性バイアス」に陥ると目の前に危機が迫っても、避難行動に移すことはできません。

そうならないために、日頃から避難訓練という「疑似体験」が必要となります。

水害が発生しそうなとき、レベルごとの情報がテレビ・ラジオ・携帯電話などで発信され、皆さんに避難を促します。

レベル3「高齢者等避難」では、高齢者や小さなお子さんなど、避難に時間を要する皆さんは、避難を開始し安全な場所へ避難しましょう。

レベル4「避難指示」では、全ての皆さんが避難を開始し、安全な場所への避難を完了する必要があります。

レベル5「緊急安全確保」で、まだ避難が完了していないときは、安全かつできる限りで自らの命を守る行動をしましょう。

避難とは安全な場所への安全な移動をいい、避難先として富山市が開設する小学校などの避難所のほか、安全な親戚・知人宅や高層建物も避難場所といえます。

日頃から自宅や職場で水害が予想されるとき、いつ（どのレベル段階で）、どのように（徒歩・前もっての自動車の移動など）、どこへ（小学校・親戚宅など）避難すればよいのか、ご家族・ご近所および職場の皆さんとあらかじめ決めた上で、実際に避難訓練をしましょう。

日頃の訓練により、いざ水害が発生しそうなときは迷うことなく避難できるようになります。

## 安政飛越地震の伝承

～後の人がよく心して、常に油断せぬよう望む～

NPO法人 富山県防災士会 永原 秀十志

富山県は全国で地震が一番少ない県と言われていますが、過去には甚大な被害をもたらした地震がありました。飛越地震（1858）については、当時の様子について記された古文書や絵図が、数多く保存されています。なかでも、「地水見聞録」には、『同じ被害を繰り返してはいかん』という先人の思いが次のように書き留められています。口語訳（広瀬 誠 訳）にて紹介します。

『何事も人々が助け合って世を渡るのが根本的な心構えとせよ。（中略）  
また親しくない人だとして、まさに死地に入ろうとするのを見て、傍観していてよいわけではない。それであるから、常々その心構えをして、「地震にはこうせよ、洪水にはああせよ、火事にはあそこに出よ、雷にはこんなぐあいに」と、あらかじめ教え置いてさえ、不意に事件が起こったときには、あわて騒ぎ立てるのが人情の常で、笑うべきことではない。同じ動ずるのでも、心づもりをして動ずる人と、なんの心もなく動ずる人とでは、大きな違いのあることは、その事情を調べてみればすぐわかるであろう。』

[ 出典：越中安政大地震見聞録（富山県郷土史会校注） ]

今年は、10万人以上が犠牲となった関東大震災から100年です。全国的に地震についての関心の高まっている折から、私たち（富山人）も過去の大災害を顧みて、日頃の備えを整える必要があろうかと思います。